

東京工業高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)		授業科目	文章表現法I			
科目基礎情報									
科目番号		0039		科目区分		一般 / 必修			
授業形態		授業		単位の種別と単位数		履修単位: 1			
開設学科		電子工学科		対象学年		1			
開設期		後期		週時間数		2			
教科書/教材		『基礎から学べる文章力ステップ 文章検 2 級対応』(日本漢字能力検定協会),『大人の語彙力が面白いほど身につく本 LEVEL 2』(青春出版社)							
担当教員		船戸 美智子							
到達目標									
1.文章表現で用いる文体・表記・用語などを適切に選択できる。 2.レポート作成の基本的な知識(構成・引用・使用する語彙など)を身につける。									
ルーブリック									
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		最低限の到達レベルの目安(可)		未到達レベルの目安	
評価項目1		書きことばと話しことばの違いを、文体・語彙などの観点から説明できる。		書きことばと話しことばの違いを説明できる。		書きことばとはどのようなものかを説明できる。		書きことばと話しことばの違いが分からない。	
評価項目2		レポート作成にあたって、レポートの構成を考慮し、参考文献一覧や先行研究からの引用など、必要な情報を明示できる。		レポート作成にあたって、参考文献一覧や先行研究からの引用など、レポートの形式面を満たすことができる。		レポート作成にあたって、レポートの構成を考慮することができる。		レポート作成にあたって、レポートの構成を考慮できず、参考文献一覧などの形式面も満たすことができない。	
学科の到達目標項目との関係									
教育方法等									
概要		現代社会は、インターネット環境の整備・普及以来、誰もが日常的に自分の意見を自在に書き、発表することが可能となった。しかし、改まった場でどう振る舞えばよいのか、誰もが一度は当惑するように、改まった文書を書く必要に迫られたとき、どのようなことばを使えばよいのか、誰もが一度は悩んだことがあると思われる。そこでこの授業では、社会人として正しい表現を用いながら、基本的なレポートを作成できる力を身につけることを目指したい。							
授業の進め方・方法		テキストを中心に演習を行いながら、受講生諸君の発表と教員からの解説を中心に進めていく。疑問点は授業中に解消できるよう、質問がある場合は、皆で議論することも含めて、積極的な発言を求めたい。							
注意点		この授業では、事前に提示される課題への取り組みが重要となってくる。課題への取り組みを中心とした自学自習の習慣を身につけること。 小テストは欠席すると0点となるので注意すること。いかんともしがたい事情があって追試験を希望する場合は、その旨を書面などに記したうえで申し出ること。							
授業計画									
		週	授業内容			週ごとの到達目標			
後期	3rdQ	1週	ガイダンス			授業の進め方と成績評価の方法を理解する。			
		2週	語彙・文法			語彙の意味を正しく理解し、書き方のルールを理解することができる。			
		3週	待遇表現 1 敬語のはたらき			敬語の三つの用法を使い分けすることができる。			
		4週	待遇表現 2 改まった時の表現			文書の中で、敬語を適切に用いて表現することができる。			
		5週	横書き文書・メールの作成			横書き文書の定型を理解し、メール等を適切に表現することができる。			
		6週	レポートの構成・表現のしかた			レポートの作成に必要な基本的な構成や表現のしかたを身につける			
		7週	レポートの事例			レポートの事例を下に、何を書けば良いのか考えることができる。			
		8週	後期中間試験			ここまでの学習をふまえ、設問に対して的確に回答する。			
	4thQ	9週	後期中間試験 返却・解説 要約 1 要約作成のポイント			要約の基本のしかたを理解することができる。			
		10週	要約 2 要約作成			文章中の主張と例とを峻別し、制限字数内で要約を作成できる。			
		11週	要約 3 データの読み取り			レポートに必要なデータの読み取りや取り入れ方について身につける。			
		12週	論説文 1 読み取り・構成			執筆に際しての基本的な姿勢(節の構成と起承転結)を身に付ける。			
		13週	論説文 2 意見・事実・理由の関係 反論のしかた			論説に必要な主張の論理展開を理解することができる。			
		14週	論説文 3 論説文を書く手順			実際のレポート作成を念頭にして構成をまとめることができる。			
		15週	レポート提出			ここまでの学習をふまえ、レポートを執筆し、提出することができる。			
		16週	レポート返却・一年間のまとめ			一年間の学習を振り返り、2年生以降の学習に備える。			
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標									
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週	
基礎的能力	人文・社会科学	国語	国語	実用的な文章(手紙・メール)を、相手や目的に応じた体裁や語句を用いて作成できる。			3		
				報告・論文の目的に応じて、印刷物、インターネットから適切な情報を収集できる。			3		
				収集した情報を分析し、目的に応じて整理できる。			3		

				報告・論文を、整理した情報を基にして、主張が効果的に伝わるように論理の構成や展開を工夫し、作成することができる。	3	
				作成した報告・論文の内容および自分の思いや考えを、的確に口頭発表することができる。	3	
				課題に応じ、根拠に基づいて議論できる。	3	
				相手の立場や考えを尊重しつつ、議論を通して集団としての思いや考えをまとめることができる。	3	
				新たな発想や他者の視点の理解に努め、自分の思いや考えを整理するための手法を実践できる。	3	

評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	0	0	10	0	20	100
基礎的能力	70	0	0	10	0	20	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0